

世界遺産周辺整備事業の概要

平成十二年十二月、首里城跡をはじめとしたグスク群と関連遺産が「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界遺産に登録されました。このような貴重な遺産群を世界の宝として保護するとともに、来訪者のためにいかに活用するか、沖縄の観光振興の重要な課題となっています。

「琉球王国のグスク及び関連遺産群」など沖縄固有の歴史・文化遺産を活用し、沖縄観光の一層の振興を図るため、世界遺産周辺に点在する史跡を復元するとともに、これらの観光資源をネットワーク化し、さらに魅力ある観光地を形成する事業が進められています。

ここでは、平成十四年度及び十五年度事業として整備が進められてきた箇所を主に取り上げ、各市町村別に紹介していきます。



繁多川公園内休憩所

【那覇市】

「うしゅがなしいめえまーい整備事業」

（世界遺産 首里城跡及び識名園関連）

識名園は琉球王家最大の別邸で、王朝時代王家一家の保養と外国使臣の接待などに利用されました。その際に国王が利用した順路が「うしゅがなしいめえまーい」であり、このルートは識名園と首里城という二つの世界遺産を結ぶ、歴史的にも観光資産という観点からも非常に価値の高いルートの一つといえます。

本事業では、その途上にある繁多川公園において、同ルートを周遊する観光客等の来訪者が快適に散策できるように、眺望機能のついた休憩所を整備しました。

【中城村】

「歴史の道整備」

（世界遺産 中城城跡関連）

中城村の丘陵地を通る歴史の道は「ハンタ（崖）道」とも呼ばれ、琉球王朝時代、首里城と中城城を最短距離（三里）で結ぶ宿次の道であり、「護佐丸・阿麻和利の乱」で首里王府軍が通った「戦の道」ともいわれており、歴史上重要な役割を果たしてきた道です。

また、西暦一八五三年五月にペリー提督の率いる米国の黒船艦隊が琉球来島のおり、艦隊から派遣された琉球奥地探検隊一行が西原を経て中城城に至るまでの道として、このハンタ道ルートが使われ、周辺で目立つ岩上にペリーが星条旗を立てたといわれる「ペリーの旗立岩」が現存しています。（写真 説明板の真上に見える頂）



「ヤチムンの里」トイレ



案内板、説明板



安波茶橋へ誘導する東屋と階段

【浦添市】

「安波茶橋周辺整備」

（世界遺産 首里城跡関連）

安波茶橋は、西暦一五九七年、尚寧王が首里浦添グスク間を整備した時に架けられたといわれているアーチ式の石橋です。先の大戦によって橋は破壊されましたが、安波茶橋を復元することにより、首里城に訪れた観光客が歴史の道（中頭方西海道）を通じて安波茶橋を渡り、首里城以前の王城である浦添グスクを訪ねることで琉球王国の歴史の深さを実感できるように整備を進めています。

本事業によりハンタ道約三・七km（全体では六・四km）を石畳道などで整備、案内板を設置することにより、道筋に点在する史跡、文化財を連結し、豊かな自然や景観にふれる事ができるように整備を進めています。



整備された「歴史の道」

【勝連町】

「観光案内及び休憩施設造成」

（世界遺産 勝連城跡関連）

勝連城跡は、琉球国王に最後まで抵抗した有力按司である阿麻和利の居城でした。勝連城は観光客や来訪者は年々増加しているにもかかわらず、駐車場、トイレ、休憩施設等が十分ではないため、本事業において駐車場等の整備を進め、観光客の利便性の向上を目指しています。